

# 利根川の水神信仰

柳 正 博

## I はじめに

上越国境の大水上山に源を発する利根川は、関東地方を北西から南東へ貫流する全長322kmの大川である。このうち、埼玉県にかかる部分は、本庄市山王堂地先から、県北の低地をおおむね群馬との県境に沿って東流し、栗橋の先で茨城県域へ入る。そして千葉・茨城の県境を画すように流れ、銚子で太平洋へ注ぐ。

利根川とその水系は、近代になって、鉄道や自動車などの陸上交通が輸送手段として優位に立つ以前には、関東の大動脈として重要な役割を果たしていた。沿岸地域には数多くの河岸場ができ、そこから米をはじめ各種産物が舟に載せられ川を下り、江戸の経済を支えてきた。そして、江戸からは、海産物や日用品が川を上って各地へ送られ、生活を潤した。また、これらの河川交通は、物資の流通のみならず、文化の伝播路として大いに貢献したといっても過言ではない。

このように、産業・経済あるいは文化の発展に大きく寄与した利根川であるが、ひとたび大水が出ればたちまち氾濫し、流域に幾多の水害をもたらせた。こうした事態に対処するため、流路の整備や治水が行われる一方で、人々は水神を信仰し、加護を求めてきた。すなわち、水運関係者は水神や大杉様を祀ったり、大杉講を組織して大杉神社に参詣するなど、航行の安全を祈願した。それと共に、洪水を恐れる地域では、水神や九頭龍神を祀り、水害に遭遇しないよう祈った。

小稿では、利根川流域に見られる水神信仰について調査し、若干の考察を試みようとするものである。利根川の水神信仰については、昭和46年に九学会連合利根川流域調査委員会が編集した『利根川』で取り上げられ、多くの成果が報告されている。また、今般、埼玉県教育委員会が国庫補助を受けて実施中の「歴史の道」調査事業（利根川水運）でも調査項目となり、たくさんのデータが集められた。このほか、沿岸の各市町村の報告書にも、水神に関する貴重な資料が掲載されている。

ここでは、筆者自身による調査とこれらの成果をもとに、利根川における水神信仰をアプローチしたい。

## II 水神信仰について

水にまつわる神である「水神」の信仰は、その様相が実に多様で、全体像の把握がなかなか容易でないのは常々感ずることである。これまでの調査で明らかになった事例を見ると、ふつう「水

神」として信仰される神には、いわゆる水神宮のほか、水天宮・弁財天・九頭龍神あるいは金毘羅宮や大杉大神などを上げることができる。そして、これらの神々に対する信仰の内容は、飲料水やかんがい用水の確保とか、水難除け・水害除け、船頭や筏師による水運の安全祈願、あるいは漁業関係者が漁撈の安全や豊漁を願ったりする場合もある。このほか、安産祈願とか貸椀淵の伝承など、水神には、さまざまなものが含まれている。

小稿では、このうち、利根川がかつて河川交通上重要な機能を果たしていたという点に着目し、舟運の安全における水神信仰を主たるテーマとしようとするものである。また、利根川の歴史をひもとくと、度重なる洪水の痕跡が見られ、人々は恐怖の念を抱いたにちがいない。こうした水害と、水神とのかかわりについてもふれてゆきたい。以上の二点に視点をおき、利根川の水神信仰を展開させることにする。なお、今回は、調査区域を埼玉県域に限ったため、この報告はあくまで利根川とその水系の流域の一部を扱ったものであることをおことわりしておく。

### Ⅲ 埼玉における利根川の水神信仰

舟運との関わりで、利根川沿岸に見られる信仰として大杉信仰を上げることができる。この神は「あんば様」と呼ばれ、茨城県稲敷郡桜川村の大杉神社（図版1-1）が本社とみられる。大杉神社の縁起によれば、神護景雲元年（767）、日光山の開祖、勝道上人が現在の奈良県桜井市に鎮座する大神神社の分霊を奉じて二荒山へ向かう途中、ここを通り、当時この地方で猛威をふるっていた疫病から人々を救うため大杉の木に神々を祀ったのが始まりと伝えられている。そのころの霞ヶ浦はまだ入り海で、大杉神社の辺りはそこへ突き出た半島ようになっており、安婆島と呼ばれていた。そのため、ここにある杉の大木が航路標識の役割を果たしていたといわれ、水上交通の神としても信仰されるようになったと考えられる。あんば様は、悪魔払い、病魔退散、水運・船中安全の神として多くの人々から信仰されてきたが、一地域神から広がりを見せたのは近世に入ってからである。このうち、水上安全の神として信仰されたあんば様は、利根川水系をはじめ、江戸に通ずる河川の舟運関係者の守護神であった。近世以降、河川交通は物資輸送の一大動脈として機能し、舟運に携わる人々は、大杉講を作って安全を祈願した。大杉神社の拝殿には、たくさんの扁額や絵馬が架かっているが、その大部分は舟運関係者によって奉納されたものである。千葉県小見川町から奉納された扁額には、波にのまれて今にも身を海中に失わんとするところを、天狗に姿を変えた大杉大神が船人を救出する様子が描かれている。また、境内の玉垣には、各地の河岸場の刻銘があり、職業集団による信仰の厚さをうかがうことができる。

次に、県内の事例を見ると、大杉神社は、群馬県境に近い上里町黛から、本庄・深谷・妻沼・羽生・栗橋・幸手にかけて点々と分布する。これらは、みな境内社か、小祠・石碑の小規模なものであるが、祠が祀られている地点は、かつて河岸場や渡船場の存在した場所である。とりわけ、妻沼町葛和田の神明社に合祀されている大杉神社は、舟運との関係でここへ定着したことをよく物語っている。近年発刊された『大杉様御由緒』記載の説明伝承の概要は次のとおりである。

江戸時代の末期、葛和田村に与助という腕利きの船頭がいた。彼は、江戸までを往き来する荷物

輸送に従事していた。その日も、いつものように、高瀬舟に米・麦・野菜などを積んで、葛和田河岸を出航した。2日目に霞ヶ浦・西浦へさしかかったところ、突然空が曇り始め、たちまちのうちにもすごい暴風雨となってしまった。腕に自信のある与助ではあったが、その操る船はまるで木の葉のようにゆれ、この日ばかりは今にも波にのまれんばかりで、さすがの彼も大変な危機に遭遇した。その時、与助は思わず、「なむ大杉大明神」という言葉を唱えた。日ごろ信仰している阿波の大杉様に加護を求めたのであるが、一心に祈念すると、不思議にも、荒れ狂う波の上に白髪・白装束の老人が白い雲にのってゆっくりと現れ、木の葉のようにゆれ動きもがいている与助の船を片手でつかみ、あっという間に波静かな海へ運んでくれた。その後無事に航行を終えて帰ることができた与助は、事の一部始終を村の人々に話した。すると、みな、大杉様の靈験あらたかなことを改めて感じ、そのお礼と以後の水路の安全を祈って神輿をつくろうという話が持ち上がった。このことはすぐに折り合いがつかず、うよ曲折したが、何度も話し合いを重ねた末、ようやく神輿ができ、大杉様の御神霊が分霊された。そして与助が暴風雨でもまれた時に助けられた神の恩を忘れぬよう、年に一度お祭りをしようということになったのである。暴風雨にもまれたということにちなんで、神輿をもみにもんで村内を練り歩き、さらには利根川へ入れ、ここでも大いにもんだので、いつとはなしに「あばれみこし」と呼ばれるようになった。

葛和田の大杉神社は、かつては利根川の岸边に近いところへ祀られていたが、明治43年の大洪水を契機に行われた移転に伴い、現在の神明社へ合祀された。この神輿は、江戸末期の享和年間につくられたものと伝えられている。舟運の全盛時代には、このお祭りに上州奥利根から銚子まで、利根川流域のほとんどの船頭衆が集まったといわれている。神輿が利根川に入る時は、葛和田河岸へ約500艘、それでも付け切らず、対岸の赤岩河岸へ約300艘もの船が付き、今では想像もつかないほどのにぎわいであったという。しかし、明治16年、現在の高崎線（上野―熊谷間）開通により、物資の輸送もしだいにそちらへ移り、舟運は衰退した。例年7月26、27日に行われた大杉様の祭礼は、昭和57年から7月下旬の土・日に移行した。

あばれみこしは、葛和田の上流、妻沼町出来島でも行われている。ここは大杉様の祭礼ではないが、伝承によれば、利根川の上流に当たる世良田（群馬県尾島町）の船頭が水上安全を祈念してお祭りした神輿を流したのを受け取ったものといわれる。その時期は、明治の末ごろで、船頭のつながりで受けたという。祭りの日取りは、世良田に習い、7月25日の八坂神社大祭に行っていたが、第二次世界大戦後、それに近い日曜日に行くようになった。

本庄市山王堂の日枝神社の境内社として祀られている大杉神社（図版2-1）は、境内に南向きに鎮座する。『武蔵國郡村誌』には、「大杉社 平社村社の境内にあり祭神勸請年月共に不詳祭日三月六月八月共に二十七日」とあるが、現在の例祭は10月17日である。社殿の前方には燈籠が1基あり、正面に「御神前」、右側は「天明三癸卯十一月日」、左に「船持中」という刻銘がある。天明3年(1783)といえば、浅間山大噴火によって利根川の流路が変わったり、洪水の続出などもあり、流域一帯に大被害を与えた年である。

深谷市高島には、生品神社の境内に「大杉殿」と「水神宮」の石祠がある。大杉殿は、右側面に「天保二辛卯年六月吉日」、左側面に「高嶋河岸 世話人 舟持中」と刻まれ、高島河岸の舟運関

係者とのつながりがうかがえる。この付近には、新戒の古櫃神社にも大杉神社がある。『大里郡神社誌』によれば、この大杉大神社について、次のように記録されているが、詳細は不明である。

一、神社名称 聖天宮（天正十九年水帳） 大杉明神（明治二年書上書） 大杉社（明治三年書上書） 大杉太神（明治四年書上書） 無格社大杉大神社（神社明細帳）

氏子の区域、崇敬者区域は不明で、本社天正十九年（1591）の水帳及び明治初年の書上書に「個人持」とあり、恐らく、祭典その他も個人によって信仰されていたものと思われる。

深谷から羽生にかけては、妻沼の葛和田以外に大杉神社の分布は見られない。羽生市上新郷の、現在の昭和橋のもとには、水天宮祠が祀られている。その銘文を見ると、「天保三壬辰年五月吉祥日 渡船中 世話人 講中」の刻銘が見られ、舟運との関連があると考えられる。ちなみに、この近くは、かつて武蔵国と上野国を結ぶ川俣の渡しがあった。また、ここに川関所もおかれていた。

栗橋町栗橋の八坂神社には、「水神宮・大杉大明神」という銘のある石祠がある。ここもかつては栗橋河岸や房川渡しがあり、水陸交通の要衝で、舟運関係者の水上安全を祈るため、水神を祀ったとうかがえる。近世のころは、利根川の堤防上に祠があり、河岸問屋をはじめ、船頭、水主によって信仰されていたと伝えられる。これを現在地へ移したのは明治中期で、堤防の改修に伴うものであった。八坂神社の境内にある浪除八幡神社は、かつて旧古利根川堤上の三ツ俣に祀られていたが、明治45年の河川改修により移設された。この社も、船頭や河岸場関係者からの信仰が厚いという。この2つの水神は、従来土手上に祀られていたものであるが、工事によって、地域の守護神の境内社として合祀されたのである。八坂神社は、町の北西部の高台にあり、背後に利根川の土手がある。創立は、栗橋宿成立後の元和9年（1624）で、縁起には、「慶長年中利根川洪水の節に元栗橋の神輿が鯉魚泥亀に守られ乱流の中にも傾覆もせず当所に来たる事は神霊の然らしむ所と則爰勧請す」とある。ここに安置される神輿は、例年7月7日から17日まで祭られる。

権現堂川筋を見ると、幸手市の旧権現堂河岸付近には、かつて河岸で働いていた人々によって祀られていた水神社がある。正月を迎えるたびに、船頭は大杉神社本宮へ初詣に出かけ、船の安全を祈る習わしであった。お参りから帰ると、彼らは、この水神社へ詣で、洗い清めたといわれている。祠の隣りには、大杉神社の碑（図版2-7）もあり、舟運のさかんな時代がしのばれる。

江戸川筋では、庄和町中野で、舟運関係者による水神祭が催されていたという記録が残っている。現存する文書は、天保2年から天保4年、天保5年から嘉永年間、嘉永年間から明治32年、明治32年から昭和18年にかけての行事を記した4部のものである。水神祭は年1回（1月17日という記録もあるが、最新の水神祭講中連名帳は2月となっている）、11名の講員の家を持回りでヤドに行っていたことがわかる。

松伏町築比地の水神祠は、基礎の正面が「桃山中」と刻まれている。ここは古くから桃の産地で、それを舟運で東京へ出荷したのである。江戸川を往来する船の事故が多いため、安全を祈願してこの祠を祀ったものであると伝えられている。刻銘に桃の生産者である桃山講や河岸問屋、さらに市場関係者の名前があるのは、この三者の関係と流通経路を知るうえからも興味深い。

古利根川筋では、宮代町川端に水神社の碑がある。これは、渡船場（ガツクの渡し）の安全を祈

って祀られたものである。建立は明治32年で、若宮・松ノ木島・堤根・中島・西原の各地区の寄付者の氏名が刻まれ、渡しの利用者の範囲をうかがうことができる。ほかに、越谷市増林の水神社の敷石には、船持中が寄進したという刻銘が見えるし、松伏町松伏の水神社（図版3-6）は、民部河岸の船頭の守護神としても信仰されてきた。石鳥居には、「関場組中 船持中」（図版3-7）という銘があり、祠は「松伏村 関場組中 船組講中」という文字が刻まれている。

中川筋では、昭和30年代前半までの水運がさかんな時代には、舟に携わる人々が水神講を組織していた。八潮市の事例を見ると、伊勢野では7月23日に船の安全を祈って水神講が催され、当日は河岸の掃除をしたり、飲食が行われた。西古新田は7月2日、下二丁目は8月15日がそれぞれ水神様を祀る日で、舟運関係者が集まって飲み食いをした。下二丁目では、船頭が相撲をとったといわれる。また、下大瀬のF家付近には弁天様が祀られ、船頭が弁天講を作り、水上安全を祈願した。弁財天は中川流域で多く分布するが、今回の調査ではそこまで迫ることができなかった。これらの弁財天は、舟運業者が中川を海として意識したため、海の守護神である江ノ島弁財天を分神したものであると伝えられている。

このように、利根川水系でも河川により、同じ信仰内容であってもその方法に微妙なちがいが見られる。

次に、水害除けとして祀られた水神を見ると、上里町勅使河原の矢田堤の九頭龍神（図版4-1）は、弘化3年（1846）の洪水で破堤した場所に祀られたものである。祠は、万延元年（1860）の造立であるが、勅使河原村のほか近隣20か所の村名が刻まれている、水害のすさまじさを想像できる。行田市酒巻の水神碑（図版4-2）は、神明社の境内にあるが、かつては利根川の堤防上に祀られていた。ここは、流路がカーブする地点であり、上流からくる川の水は、この水神祠の堤を目がけて突き当たり、そこで向きを変えて下流へ注ぐのである。そのため、ひとたび大水が出ると、いちばん危険な場所となり、水害に遭遇しないよう、ここに水神を祀ったといわれる。明治43年の大水の折には、この付近の堤防を水流が直撃し、恐ろしい様子であったと伝えられている。

群馬県邑楽郡板倉町の長良神社は、洪水除けの神として古くから知られてきた。人々は、雨が続きと社に集まり、祠から不動尊を出して雨上がりを祈願したという。長良神社は、羽生市本川俣にもある（図版4-3）。この神社は、天正3年（1575）の洪水で瀬戸井（群馬県千代田町）から流れ着いた神といわれる。本川俣の長良神社は、古くは利根川を臨むところへあったといい、水神として祀られている背景には、利根川の水の脅威から人々を守ってくれる神として信仰されてきたものと考えられている。

利根川本流の行田・羽生周辺から東の地域は、むかしから度重なる水害に見舞われたところである。以前関東を襲った主な水害を江戸時代から列挙すれば、次のとおりである。

寛永元年（1624） 宝永元年（1704） 享保2年（1742） 寛保2年（1717） 宝暦7年（1757）  
安永元年（1772） 天明3年（1783） 天明6年（1786） 享和2年（1802） 文化5年（1808）  
天保7年（1837） 弘化3年（1846） 安政6年（1859） 慶応4年（1868）  
明治元、2、3、4、11、17、18、20、23、29、40、43年  
大正2、3、8、11、13、14年

水害の年代	被害状況・その他	水神
天明6年(1786)	「羽生領 上川俣村地内龍藏破堤」(『北埼玉郡史』) 「五月の頃より、雨繁く、隔日の様なりしが、七月十二日より別けて大雨降り続き、山水あふれて洪水と成れり。」(『武江年表』)	「水神祠」(羽生市) <17> 「風天宮・水神宮碑」(羽生市) <22>
文化5年(1808)	「六月初旬より雨繁く降り、十六日より十八日迄、江戸及び近国洪水溢る。米穀価貴し。」(『武江年表』)	「弁才天碑」(大利根町) <25>
文化6年(1809)	「八月二十三日夜、亥の刻より二十四日迄大風雨、家屋を損じる事夥し……」(『武江年表』) 「閏八月三日、四日、大風雨人家を損じ、樹木を倒す。江戸中其の外出水。」(『武江年表』)	「大弁才天碑」(大利根町) <26>
文政7年(1824)	「七月二十四日、八月十三日、十四日大風雨。八月中霖雨。関東洪水。」(『武江年表』)	「水神宮碑」(庄和町) <41>
文政8年(1825)	「春より秋へかけて連雨止む時なし。」(『武江年表』)	「水天宮・風神宮碑」(羽生市) <23>
弘化3年(1846)	「弘化三年六月十六日ヨリ大雨利根川洪水……」(『北埼玉郡史』) 「曾て幕末弘化三年六七月両度に來襲せる洪水は当矢田堤塘を欠潰し烏川の逆流を交へて賀美村北部の低地帯を一瞬にして奔流となし神保原、旭、本庄、仁手、藤田さては蜿蜒其の下流全域を泥海と化せしめ人命、土地、家屋の流失は勿論暴虐將に啞然たらざるを得ない大惨禍を蒙らしめたのである。 賀美村当時の資料に徴すれば毘沙土天神二部落の全流失は悽慘舌に勝場、金久保、忍保、下之堂、本庄、田中、傍示堂等村落一部の流失は枚挙するに暇無く当時災害地一帯の悲況正に想う可しである。 万延元申年八月下流一宿二十一ヶ村にて欠潰箇所堤上に石祠を建て水魔鎮護の爲九頭龍神社を勧請祭祀し矢田水防自負請組合を結成協同防禦を協定したのである……」(『矢田堤塘之碑文』)	「九頭龍大権現碑」(大利根町) <27、28> 「九頭龍神社祠」(上里町) <2>
安政5年(1858)	「飯積八十間麦倉百八十間栄六十間本郷百二十間破堤浸水被害弘化三年ト同様ナリ(餘ス所ナク浸水)」(『北埼玉郡利島村水災史』)	「水神宮・風神宮」(北川辺町) <24>

水害と水神の事例 水神の造立年代とその年に近い水害を対照させた表である。水神欄の番号は89、90頁の一覧表のものと一致する。

昭和3、6、10、13、16、22年

このうち、寛保2年・天明6年、安政6年の水害は、江戸時代の三大水害といわれるほど大きなものだった。利根川流域の水神の建立年代を見ると、今までの調査でいちばん古いのは、天明6年（1786）の水害直後に祀られたものである。この年の7月16日、利根川の堤防が四方寺村の上中条で決潰、忍領は大きな被害を受けた。そればかりか、7月中出水、8月は強風で稲が実らず大不作となり、水害は広汎に及んだ。しかも、7・9・10月と3度も水難に遭い、武蔵・下野・上野一帯が大雨で、昼間でもまるで夜のように暗かったと伝えられている。そのころ祀られた水神が、羽生市下村君の碑で、「風天宮・水神宮」という銘がある（水神一覧表 No. 22）。その翌年、羽生市新郷の水神祠（表 No. 17）が祀られているが、これも天明6年の災害の後、二度とこのようなことが起こらぬように祈って建てられたものと考えられよう。この祠は、現在は利根川の堤防の中腹にあり、堤内を向いて建っている。『利島村水災誌』（現北川辺町）には、「安政5年、飯積60間麦倉 180間 栄60間 本郷 120間破堤」とあり、ほとんど浸水の状況であったといわれている。翌年、飯積の中新田に水神碑（表 No. 24）が祀られ、水難に遭わぬよう祈願したという。流域の水神の造立年代とつながりがあると思われる水害は、別表のとおりである。

江戸川・古利根川・中川筋では、八大龍王碑があちこちに分布する。これらの大半は堤防上にあるが、なかには移設されたものも見られる。吉川町上笹塚の八大龍王碑は、今は盛土の上にあるように感じられるが、これは旧庄内古川の堤防の一部であり、改修の際地元の人々の熱意によって残されたものである。深井新田の水神社は、古くは江戸川の、利根運河の対岸に当たる土手上にあった。そこは、明治29年の洪水で決潰した場所である。大正年間の江戸川改修に伴い、水神社は堤内に移されたが、この境内にも八大龍王碑があり、水害除けとのかかわりがうかがわれる。

中川筋には、「土手守り神」と呼ばれる石碑がある。これは、明暦元年（1655）に造立された供養塔で、八潮市二丁目の水川神社付近に祀られ、次のような刻銘がある。

（右側面）奉供養造立所本願念故

（善左エ門 外6名の人名あり）

（正面）神力演大光普昭無際土消除三垢冥廣州衆尼難

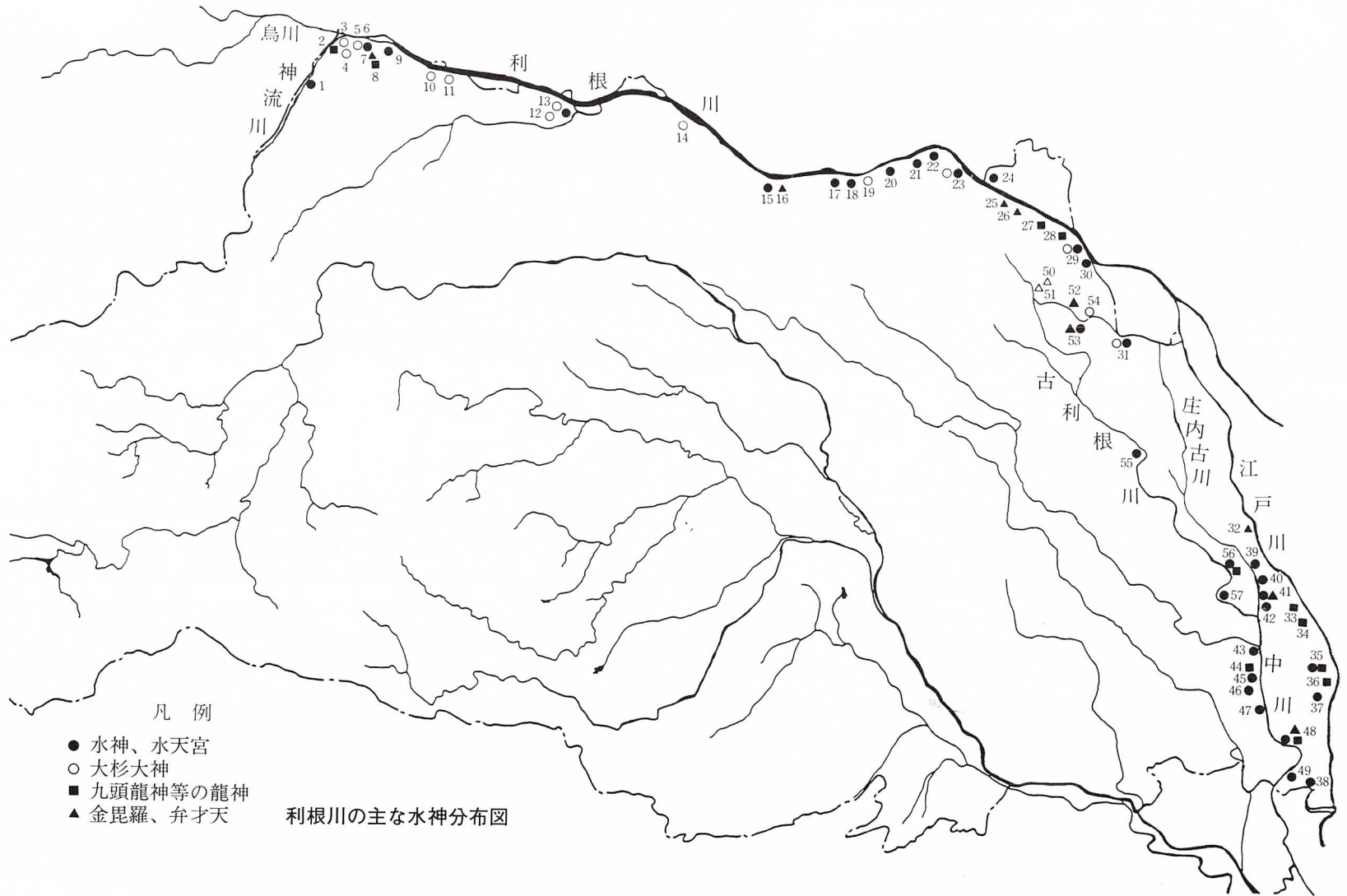
（石左エ門 外3名の人名あり）

（左側面）于時明暦元年乙未年九月廿七日本願浄西

（久右門 外1名の人名あり）

水川神社のそばの土手は、切れ所としてムラ人を悩ませてきた地点であった。そこで、ムラ人たちは龍神を鎮めるため、石仏を立てて獅子舞を奉納した。この石碑は、昭和61年の中川改修により普門院山道入口へ移設した。

このように見ていくと、水害と水神碑の造立には結びつきがあるようにも思えるが、丹念に見れば、必ずしも全部の事例についてそれが当てはまるとは言い切れない。水害の惨禍からのがれるため、人々が神にすがろうとする気持ちはどこでも感じられることではあるが、それ以外のさまざまな要因が作用しながら水神碑の建立となるのであろう。水害除けの水神が祀られた場所については、たいていが破堤地点かその危険性の高いところと考えることができ、そこに水害への恐怖とともに、





利根川流域の主な水神

No	名 称	所 在 地	河 川 名	銘 文 そ の 他	内容
1	水 天 宮 碑	上里町長浜	神 流 川	「大正十五年四月 長濱堤塘築工拾周年 長濱工事部」	B
2	九 頭 龍 神 社 祠	〃 勅使河原		万延元年8月創建、武州賀美郡勅使河原村ほか21か村の刻銘あり	
3	大 杉 神 社	〃 鷲	鳥 川	「奉献 上州高崎 釜屋又四郎ほか3名 世話人 小樽久右衛門 文化三年丙寅抄冬」銘の水鉢あり	A
4	( 大 杉 神 社 )	〃 金久保		明治44年2月20日 金久保神社に合祀	
5	( 大 杉 神 社 )	〃 八町河原		稲荷神社の境内社	
6	( 水 神 社 )	〃 〃		明治40年4月23日 稲荷神社に合祀(現在なし)	
7	琴 平 神 社	本庄市新井	利 根 川	明治45年 稲荷神社に合祀	
8	九 頭 龍 社	〃 都島		角折神社の境内社	
9	大 杉 神 社	〃 山王堂		日枝神社の境内社 「御神前 船侍中 天明三癸卯十一月日」銘の燈籠あり	A
	水 神 祠	〃 〃			
10	( 大 杉 神 社 )	〃 仁手		明治44年の記録に諏訪神社の境内社の一つに上げられている(『武蔵国児玉郡誌全』)	
11	大 杉 大 明 神	〃 小和瀬		「寛政五癸丑九月□□ 武州榛沢郡小和瀬□」	
12	大 杉 大 神 社	深谷市新成		古權神社の境内社	
13	大 杉 殿	〃 高島		「天保二辛卯年六月吉日 高嶋河岸 世話人 舟持中」	A
	水 神 宮	〃 〃		「寛政六甲寅年六月吉祥日 惣邑講中」	
14	大 杉 神 社	妻沼町葛和田		神明社の境内社	A
15	水 神 碑	行田市酒巻		「寛政八年丙辰年 六月吉日 惣邑中」	B
16	弁 財 天 祠	〃 下中条			
17	水 神 祠	羽生市上新郷		「天明七丁未四月吉日 上新郷西新田」	
18	水 天 宮 祠	〃 〃		「天保三壬辰年五月吉祥日 渡船中 世話人 講中」	A
19	大杉明神・河伯水神	〃 上川俣		「寛政三年辛亥年四月十五日 埼玉郡上河俣邑奉勸請惣氏子 西照寺」	
20	長 良 神 社	〃 本川俣			B
	水 神 宮 碑	〃 〃		「寛政七乙卯年六月吉祥日 武州羽生領七拾壹ヶ村組合 願主 世話人 本川俣村 堀越七郎治 柿沼助左衛門」	
21	川 水 神 祠	〃 発戸		「明和元年申歳 武州埼玉郡羽生領 発戸 観乘院」	
22	水 神 宮 碑	〃 下村君		「大正十三年三月十八日 尾上水之助」	
	風天宮・水神宮碑	〃 〃		「天明六丙午年九月吉日 下村君村中」	
23	水 神 宮 碑	〃 名			
	大 杉 大 神 碑	〃 〃		「文政改元戊寅六月吉日 武州羽生領名村 世話人 斉藤兵助」	
	水天宮・風神宮碑	〃 〃		「文政九戌年九月吉祥日 武州羽生領名村中」	
24	水神宮・風神宮碑	北川辺町飯積		「安政六巳未三月吉日 武州飯積村中新田 願主 新井□□ 利根川□□ 秋山□□ 同□□」	B
	水神宮・風天宮碑	〃 〃		「文化十三子四月吉日 飯積村中新田」	B
25	弁 才 天 碑	大利根町弥兵衛		「文政五年八月吉日 施主 橋本小左衛門」	
26	大 弁 財 天 碑	〃 新川通		「文化六己巳十二月吉日 浅井右衛門」	
27	九 頭 龍 権 現 碑	〃 〃		「嘉永元申四月□日 栗原伝蔵 栗原久太郎 町田甚五郎」	
28	九 頭 龍 大 権 現 祠	〃 旗井		「天下泰平 嘉永元年申四月之念 領内安全 水難除守護」	B
29	大杉明神・水神宮祠	栗橋町栗橋		「文化六己巳六月吉日 惣船渡中」	A
30	水 神 宮 祠	〃 下河岸		「昭和六年二月 内務省東京土木出張所 工学博士 真田秀吉 埼玉県北葛飾郡 栗橋町協賛」	B
31	水 神 社	幸手市北	権現堂川		

32	大杉神社碑	〃	江戸川	「明治四十一年十一月」	A
	琴平神社碑	庄和町西金野井		「明治三十年三月」	
33	金毘羅権現	〃 〃			
	水神社祠	松伏町築比地		「明治廿四年八月吉日建立 桃山中 東京神田市場（人名5名）、京橋市場（人名4名）、濱町市場（人名2名）、二ノ江（人名4名）、今上（人名）、小松川（人名）、船堀（人名）、湊町（人名） 築比地上組（人名9名）、新宿（人名2名）、上川岸（大館億右衛門）、野田下町石工（人名）」	A
34	八大龍王碑	〃		「嘉永四辛亥年春三月 築比地村中」	B
35	水神社	吉川町深井新田			
	八大龍王碑				
36	八大龍王碑	〃 上笹塚		「鎮中安全」	
37	水神社	〃 鹿見塚			
38	水神社	三郷市鷺野	大場川		
39	水神宮碑	庄和町永沼	庄内古川	「文政六末年 三月吉祥日」	
40	水神宮碑	〃 水角			
41	水神宮碑	〃 赤崎		「文政八乙酉二月吉日」	
	金毘羅大権現祠	〃 〃			
42	水神宮碑	松伏町魚沼		「文化八辛未年一月吉日 世話人 高橋平左エ門 同新左エ門」	「西魚沼村中」
43	水神社	越谷市東町	元荒川		
44	弁財天碑	草加市柿木町	中川		
45	水神碑	〃 〃			
46	水神碑	〃 〃			
47	水神祠	八潮市八条		「寛政八辰六月吉日 安藤宗右衛門 石井治兵衛 豊田七重良 上組合中 天下泰平国土安全 中島兵庫 世話人物若者中」	
48	水神宮碑	三郷市谷口		「天明五乙巳年三月吉日」	再建 水神講員の人名あり
	八大龍王碑	〃 〃			
	辨財天碑	〃 〃			
49	水天宮碑	〃 戸ヶ崎			
50	九頭龍大権現碑	大利根町生出	中川	「文政四年巳六月吉 生出村願主 金子清左衛門 村中」	
51	九頭龍大権現碑	〃 〃	(島川)	「生出村願主 金子清左衛門 村中」	
52	弁才天碑	栗橋町狐塚			
53	水天宮碑	幸手市松石			
	辨財天碑	〃 〃			
54	大杉神社	〃 高須賀			
	大杉大明神碑	〃 〃			
55	水神社碑	宮代町川端	古利根川	「明治三十二年亥年十月十日 石工 山田仙蔵」	若宮、松ノ木島、堤根、中島、西原地区の24名の刻銘あり
56	水神碑	松伏町大川戸		「天保十一子〇月日」	
	八大龍王	〃 〃		「安政五年戊午年三月日 大川戸邸」	
57	水神社	〃 松伏		(鳥居) 「松伏村 関場組 船組」中	「嘉永五壬子歳六月吉日 石川好豹」
58	水神社	越谷市増林		(祠) 「水神 松伏村 関場講中 船組講中」	】
59	大杉神社	〃 大杉			A
60	水神祠	〃 増林		「正徳四申午 正月十一日」	A

【注】表の番号は、88ページの図の番号と一致する。なお、伝承や文献等で明らかになった信仰の内容は次の記号で示すとおりである。

A 水上安全を祈り、舟運関係者が祀る水神

B 水害、水難除けとして祀られた水神

人々の日ごろの英知や水防の伝承が表れているということができる。

## IV おわりに

利根川の水神を、舟運の安全と水害除けの守護神という2点に着眼し、ながめてきた。利根川の堤防に、水害除けとして祀られている水神は、その大半がかつての破堤地点であるなど、何らかの被害を受けた場所といえる。これは単に洪水の恐怖とか、供養を意味するだけでなく、いざというときに守るべきポイントでもあり、人々の鋭い観察力が表れている。水神の祀られた時期と大水については前述のとおりであるが、ある程度推測の域は免れないにしても、二度と水のこわさを味わいたくない願いを考えれば、この両者は相当関わり合っているといわざるをえない。

次に、舟運に関わる水神を見ると、主として利根川本流で多く見られるが、それ以外にも河岸場・渡船場のあったところへ散在し、関係者の信仰を集めたといえよう。中川筋では、川岸で舟運に携わる人々が水神講を組織するなど、独自の展開が見られる。また、ここは川口に近いため、海の守護神である江ノ島弁財天が信仰されている点も特色の一つである。

筏師が信仰する水神については、今回管見できなかった。利根川に限っていえば、埼玉は他所で組まれた筏の通過地に過ぎず、それが水神信仰として表れなかった一因と思えなくもない。ちなみに、歴史の道調査「利根川水運」でも、筏についての資料はほとんど上がらず、神流川で大正時代、一本流しを見たという伝承があるのみであった。このことは、自前で筏を組んで、利根川へ流した筏師の存在が、県内では稀なものとしてとらえられるし、水神を祀り祈願するほどの切実さはなかったというようにも思えるのである。

最後に、大杉信仰について述べると、その分布が利根川流域に比較的多いのは今まで見たところである。これに対し、荒川や入間川では、現在までの調査ではほとんど存在しないことがわかる。ところが、川越から江戸（東京）へ流れる新河岸川には、大杉信仰の分布が点在（昭和61年度の歴史の道調査では4例ある）するだけでなく、川越・上福岡・富士見・志木などの沿岸各地で、船頭が大杉講を組織していた。この川は舟運上の難所が多く、関係者は運航の安全を祈願して大杉様を祀ったと伝えられている。利根川と新河岸川でなぜ大杉信仰がさかんだったかという問題は、これまでの報告書でもあまりふれておらず、ここで論ずべき資料もない。おそらく、新河岸川の河岸場の創設期の船頭衆に、利根川筋からの雇い入れがかなりあり、それが信仰に大きく反映したものととらえることができようが、このことは今後の課題として別稿で扱いたいと思う。いずれにしても、今度の調査の結果を見ても、個々の河川の機能や特色が、水神の信仰内容に強い影響を及ぼしているということを痛感する。ここでは綾瀬川・元荒川が未調査であるが、これについては機会を設け、補充するつもりである。

なお、小稿作成に当たり、下記の文献のほか、昭和63年度「歴史の道」調査資料を参考とさせていただいた。記して謝意を表する次第である。

〈参考文献〉

- 九学会連合利根川流域調査委員会『利根川－自然・文化・社会－』 1971 弘文堂  
『新河岸川の水運』（歴史の道調査報告書第八集） 1987 埼玉県教育委員会  
『利根川の水運』（歴史の道調査報告書第十集） 1989 埼玉県教育委員会  
『大杉様御由緒』 1984 岡田定雄  
『大利根百話』 1987 (社) 関東建設弘済会  
伊藤正和「富士見の大杉講」『埼玉民俗 第14集』 1985 埼玉民俗の会  
『幸手町歴史散歩』 1982 幸手町教育委員会  
宮村 忠『水害 治水と水防の知恵』 1985 中央公論社  
『埼玉県立図書館復刻叢書（十） 明治四十三年埼玉県水害誌』 1987 埼玉県立図書館  
『行田市史 下巻』 1964 行田市役所  
『加須市史 通史編』 1981 埼玉県加須市  
『北川辺の水害』 1979 北川辺町史編さん委員会  
『八潮市史 民俗編』 1985 八潮市役所  
『羽生市史 下巻』 1975 羽生市役所  
『羽生市史 追補』 1976 羽生市役所  
『埼玉縣北埼玉郡史（復刻版）』 埼玉縣北埼玉郡役所編纂 1987 千秋社



1 阿波本宮 大杉神社 (茨城県桜川村)



2 大杉神社絵馬



3 大杉神社の奉納額



4 大杉神社 (妻沼町葛和田)



5 あばれみこし (妻沼町葛和田)



1 大杉神社 (本庄市山王堂)



2 「船持中」刻銘 (本庄市山王堂)



3 水天宮祠 (右) (羽生市上新郷)



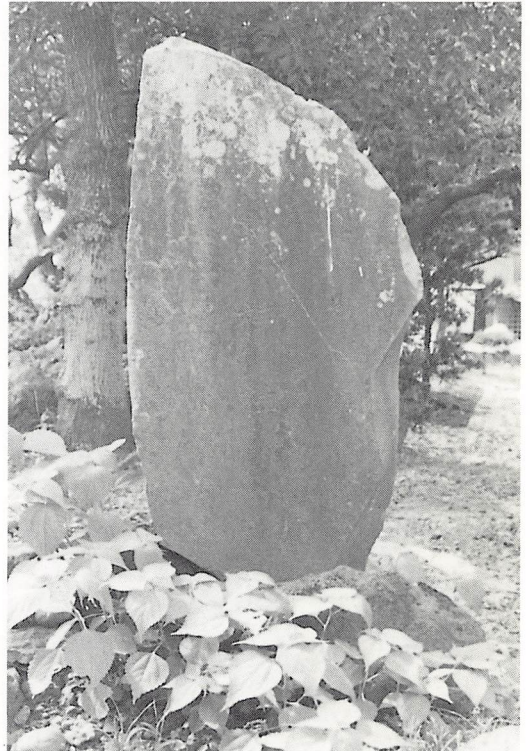
4 水天宮刻銘 (羽生市上新郷)



5 水神祠(中央)、大杉殿(右) (深谷市高島)



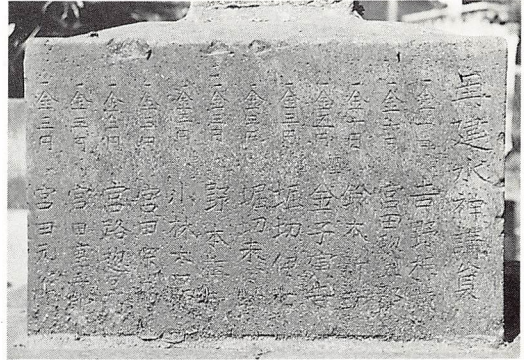
6 水神宮・大杉大明神祠 (栗橋町栗橋)



7 大杉神社碑 (幸手市北)



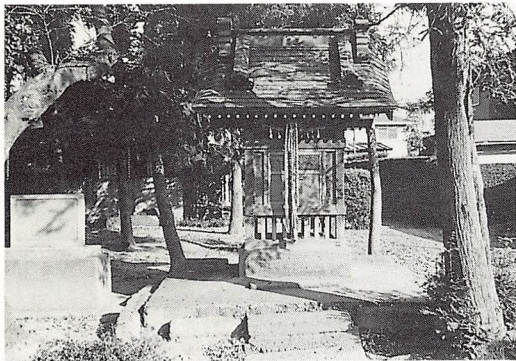
1 水神宮・八大龍王碑 (三郷市谷口)



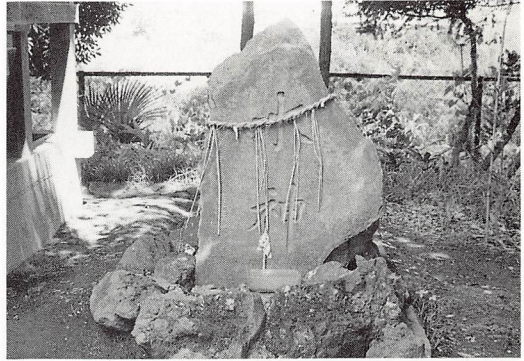
2 水神講員刻銘 (三郷市谷口)



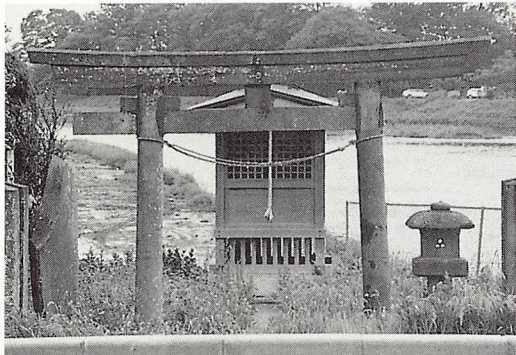
3 水神祠 (八潮市八条)



4 大杉神社 (越谷市大杉)



5 水神碑 (草加市柿木町)



6 水神社 (松伏町松伏)



7 水神社鳥居刻銘 (松伏町松伏)

図版 4



1 九頭龍神祠 (上里町勅使河原)



2 水神碑 (行田市酒巻)



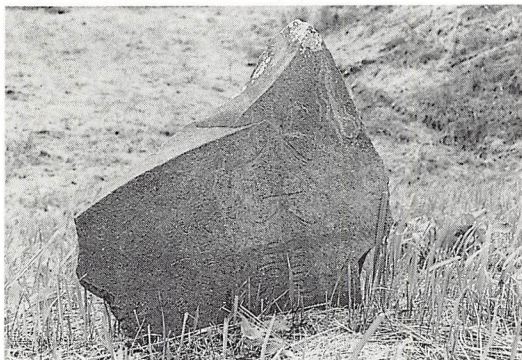
3 長良神社 (羽生市本川俣)



4 九頭龍大権現祠 (大利根町旗井)



5 水神宮碑 (北川辺町中新田)



6 八大龍王碑 (松伏町築比地)



7 水神社 (吉川町深井新田)